

甲府西高 2年次だより



修学旅行特集第3弾:みんなはいくつ読める? 難読地名・名字

沖縄に行くときまず気になるのが地名・名字の読み方、およそ本土ではお目にかかれないような読み方の地名・名字が数多く出てきます。例えば「東風平」「南風原」なんていうのはどうですか、読めますか? 因みに「東風平」は「こちんだ」、「南風原」は「はえばる」と読みます。なぜこんな変わった読み方をするのでしょうか? その理由には沖縄の歴史が大きく関係しているようです。

沖縄にはかつて「琉球王国」という国があり、13世紀ごろに日本から伝わった仮名(平仮名)が一般的に使われ、地名も仮名表記でした。しかし、1609年の島津氏の侵攻で薩摩藩が琉球を支配するようになると、地名の琉球語の音に該当する漢字があてがわれ、漢字の使用が広がり始めました。沖縄では「東風」のことを「こち」、「南風」のことは「はえ」と言います。そこで「東風の吹く平坦な土地」という意味の「こちんだ」が「東風平」に、「南風の吹く原」という意味の「はえばる」が「南風原」となったようです。

また姓(名字)に関して言うと、琉球王国では、庶民には許されていませんでしたが、王族・士族は姓を使っていました。しかし薩摩藩が、1624年に「大和めきたる姓の禁止」の通達を出し、日本風の姓は改めるか、当て字を用いて三文字姓などに変えさせました。こうして「真栄田」姓や「与古田」姓などの三文字表記の名字が生まれたようです。そしてその後、1872年の「琉球処分」の後、沖縄の庶民も名字を持つことが許されるようになると、喜屋武(きゃん)や渡嘉敷(とかしき)など地名に由来する沖縄独特の名字も生まれました。

このような歴史の過程で生まれた沖縄独特の地名・名字、この旅行中にも数多く触れることができるでしょう。そんな時はちょっとこのコラムを思い出して沖縄の歴史に思いをはせてくれると嬉しいです。

では最後にクイズです。沖縄の難読地名ランキングより さていくつ読めるかな?

1. 保栄茂
2. 城辺新城
3. 勢理客
4. 仲村渠
5. 大工廻



保護者のみなさまへ

心配された天候にも恵まれ、第23回健康の森ウォーキング大会を実施することができました。生徒達はいつもの教室を離れ、己の体力の限界にチャレンジするべく走るものや、友人達と語りいながら歩くものなど思い思いに秋の1日を楽しんだようです。保護者の皆様には、当日の交通指導等で多大なるご支援をいただきましたこと、この場を借りて感謝申し上げます。

修学旅行に向けての準備が順調に進んでおります。今後の日程や連絡については後日配布する「お知らせその2」をご確認ください。また何かご不明の点や気になることがありましたら、遠慮なく学校までお問い合わせください。

【11月の予定】

日	曜	主な行事	日	曜	主な行事
1	金	B 冬服期間(～4/30) 第2回PTA理事会	16	土	土曜講座
2	土		17	日	
3	日		18	月	A きすなの日
4	月		19	火	A
5	火	A	20	水	県民の日、科学探究プログラム(最先端科学技術研修)
6	水	A	21	木	A
7	木	A 第40回山梨県高等学校芸術文化祭グランドステージ	22	金	A
8	金	A 履修本登録提出締切、進研記述模試	23	土	勤労感謝の日
9	土	進研記述模試、囲碁選手権会場	24	日	
10	日	囲碁選手権会場、甲府市総合防災訓練会場	25	月	きすなの日
11	月	B	26	火	第3回定期試験
12	火	B	27	水	第3回定期試験
13	水	B あいさつ運動 第4回マナーアップ運動	28	木	第3回定期試験
14	木	B あいさつ運動	29	金	第3回定期試験
15	金	B あいさつ運動、短縮50分授業、大掃除	30	土	

【先生方からの寄稿】

今月は2組の担任・副担任の先生方です。

強く心に残る1日

2組担任 平本 圭子

何度か訪れた沖縄、その中で印象深い1日がある。それは、4年前の11月、引率した修学旅行3日目のことである。佐喜眞美術館（年次だよりでも紹介されました）で「沖縄の地上戦」をテーマに描かれた「沖縄戦の図」を前に、佐喜眞館長よりお話を伺った。絵に描かれた沖縄戦に圧倒された。ほとんどの人には瞳が描かれていないが、人々の様子はその恐怖、悲劇の大きさを訴えていた。大切な人を失った悲しみ、子どもを思う母の気持ち、未来を奪われた絶望、様々なことを語りかけてきた。中央に描かれた子どもの瞳も印象に残った。屋上に上がり普天間基地に続く滑走路も見学させていただいた。轟壕（整備されていない壕）でのガン体験では、「沖縄戦の図」をわずかではあるが、現実のものとして体験することができた。沖縄在住の新里スエさんから体験講話も伺い、平和祈念資料館も見学した。沖縄戦の激しさ、人々の苦しみ、辛さを目と心と体で感じる事ができた。そして今沖縄が抱える基地問題にも心触れ、昔もそして今も苦しんでいる沖縄を深く感じる貴重な1日となり、今も強く心に残っている。

修学旅行に向けて、鳳凰学のディベート大会では、基地問題について意見交換を行い、考えを深めた。事前学習では、それぞれのテーマに沿って調べ学習を行い、沖縄の宮里祐光先生の平和講和も伺った。班別行動のコースも考えた。沖縄について、皆さんはどんな印象を持っただろうか。

戦後、27年間米国の統治下にあった沖縄が日本に返還されて、47年経つ。沖縄の人々は「沖縄は他人事か。いつになったら沖縄も日本といえるのだろうか。」という思いを持っているという。エメラルドグリーンに輝く海、豊かな自然、人々のゆっくり話す言葉が印象的な沖縄。この穏やかな沖縄にも、人々が苦しみ悲しんだ歴史があり、今も人々の苦しみはいえることはない。修学旅行を通して、少し遠い地沖縄の歴史に、そして今に、心を寄せてほしい。戦後74年経つが、戦争の惨劇に目を向けて、平和について考えてほしいと思う。

心のすみに

2組副担任 穴水 史彦

先日ラグビーワールドカップベスト8、日本 vs 南アフリカ戦が行われました。私の家では家族全員でテレビ観戦をしました。結果は日本が負けてしまいましたが、日本は予選リーグを全勝し、初のベスト8進出という素晴らしい結果を残しました。4年後のワールドカップも更に上位を目指して頑張りたいと思います。

さて、2年生も半分が過ぎ、高校生活も残り1年と半年を切りました。いま3年生は進路実現に向けそれぞれが一生懸命に取り組んでいます。みなさんもあと5ヶ月経つと3年生となり、自分の進路について取り組んでいくこととなります。

振り返ってみると私の高校生活は、勉強もしたのですが、どちらかというと部活中心の生活だったと思います。朝練があり、授業をして、夜遅くまで練習していたことを思い出します。あれから約28年経ち、中年のおじさんになってきました。（家に帰ると娘達に「おじさん」とよく言われます。）高校を卒業して社会へ出てから現在まで、いろいろなことがありました。そして沢山の経験をしてきました。これまで経験してきたことが今の自分を作ってくれているのかなと思います。

あと1年と半年経つと社会へ出て行くみなさんへ、下記の言葉を心のすみにとめておいていただければ幸いです。これからの生活の参考にしてみてください。

- | | |
|------------------------|------------------------|
| 【あ】「ありがとう」は何度言っても良いこと。 | 【さ】最低限のお金がないと自信を失うこと |
| 【い】「忙しい」と言う人は頼りにならないこと | 【し】叱られるのは20代の特権であること |
| 【う】運を引き寄せるためには努力し続けること | 【す】素直になること |
| 【え】笑顔は最大の武器であること | 【せ】成功談よりも失敗談から学ぶこと |
| 【お】お礼はすぐにすること | 【そ】外に目を向けること |
| 【か】学生時代の友人を大切にすること | 【た】他人の意見は無責任であること |
| 【き】今日から始めること | 【ち】小さなことで大騒ぎしないこと |
| 【く】苦しいときこそ諦めないこと | 【つ】強がらなくて良いこと |
| 【け】健康を当たり前と思っはいけないこと | 【て】できないという人は必要ない人であること |
| 【こ】心を鍛えるには体を鍛えること | 【と】どんな状況でも家族は裏切らないこと |

以上です。これからの高校生活、頑張っていこう。